

## 東京都子供・子育て会議 評価に関連した意見

第7回計画策定・推進部会（H26.11.6）における意見	
1	統計データを利用するだけでなく、都民の調査を実施すべきである。
第8回計画策定・推進部会（H27.2.10）における意見	
2	広域的な取組ができたかどうかや、民間サービスやNPO団体の資源を生かされたかどうかなど、数字にしにくいものの評価の手法を工夫すべきである。
3	5つの視点を取り入れて事業ができたかどうかという評価の手法も工夫すべきである。
4	東京都の役割は、バックアップ機能や、広域調整であると考える。その役割の上で、課題の抽出、区市町村の進捗状況のチェックを行い、5年ごとに評価し、必要であれば、東京都のほうから区市町村に取り組みを促すような施策を講じていくサイクルを、都道府県の取組として実施していただきたい。
第4回子供・子育て会議（H27.3.26）における意見	
5	質的評価は極めて難しいと思うが、進行管理と正しい量的・質的評価をし、公表してほしい。
6	総合計画の実施がどのように都民に還元されたのかという視点を検討してほしい。
7	海外での事例も取り入れつつ、全国でモデルになるような評価指標を作っていただきたい。
8	子供一人一人が成長・発達を促す教育・保育を受けているのかというところを、ぜひ評価していただきたい。
9	東京都長期ビジョンと東京都子供・子育て支援総合計画と、単年度の予算の三つがうまく見えるような形で計画が見えて、PDCAを回せるようなチェック体制が望ましいと思う。
10	総合計画の成果や課題について、短期的に、常に配慮しながら進める方策を考えることが大事だと思う。
11	保育の量と保育の質ということについて、この計画の策定と評価という中で、重視すべきと思う。

第9回計画策定・推進部会（H27.10.14）における意見

12	福祉保健基礎調査を補足する利用者満足度調査を今後行っていくことも大事。
13	インタビュー調査、特に保育士や、保護者等の特定の層に対してのインタビューも必要ではないか。
14	特定の層に対してのインタビューと同時に、少人数グループに対するグループインタビューも必要。子ども自身にしっかり聞くことも続けてほしい。グループインタビューやインタビューを補完的に使っていくことも大切。
15	区市町村での評価指標がどのようなになっているのかを調べ、そこからヒントを得ることも大事。
16	P D C Aを回せるような評価が重要。
17	特定の事業ごとの評価が必要。特にゆりかご・とうきょう事業や、認定こども園について。また、認定こども園の事務量増加については、タイムスタディー評価などを行ってみることも大事。
18	子供達が今できていればいいということではなくて、将来を見通して今どういう評価が必要なのか、適応をどうやって評価していくかについて、幅広い形で評価項目を作っているかなければいけないのではないか。
19	認証保育所の評価も入れていくことが必要。
20	例えば、合計特殊出生率、子供の貧困率、家庭的養護の割合なども、アウトカムの評価にもつながってくるのではないか。
21	子供の思い、願い、ニーズを受け止めることが大事。